

日本の未来 若者

を託す たちのあるべき姿

伊藤 澄夫 伊藤製作所会長
中京大学特別栄誉客員教授

失われた30年と言われ、日本は海外からも同情されるような停滞が続いているのはある意味で事実だ。物価や給与は数十年上がらず、日本国民は自信を失っているようにも感じられる。

海外の国民はおおむね愛国心をもち「自国は最高だ」と考えるのが一般的だが、日本人は謙虚で控えめな国民なのか、「日本はダメだ、自分はダメだ」と考える者が多く、マスコミの論調はそれに輪をかけている。その一方、日本人以外ではありえないマナーや能力、幅広いモノづくり技術などを取り上げるテレビ番組なども多い。

世界で活躍する平成世代

昭和に活躍した日本人はそろそろ退き、平成生まれがとって代わる時期に来ている。その世代の中でも、プロ野球の大谷翔平君やボクシングの井上尚弥君は、世界でも断トツの強さを示している。エンゼルスからFA(フリーエージェント)となっていた大谷君は10年総額7億ドル(約1015億円)というメジャーリーグ史上最高額で

あちこちの店で名刺を配り回っていたと聞いた。筆者の過去の経験から、このような若者は良い仕事ができない。案の定、2年余り経過したころ、会長が社長に返り咲き、社長は降格となった。

筆者の長年にわたる経験から得た、企業の大小を問わない昇格した若者のあるべき行動を述べたい。

企業のトップやグループ長になった若者が、前任者を否定したり、自分独自の手法を取ることには、上司や部下に反発される。とりあえずしばらくは前任者のやり方を取り入れ、周辺から人間性や手腕を認められてから、独自のやり方を進めるべきなのだ。

企業である程度の地位まで昇った者に技術や経験があることは当然のこと。それ以上に大切なことは人間性と、人間関係を良くしてから正しいリーダーシップを示すことだ。具体的には、

- ①「私はどこそこの大学を出た」と言う者がいるが、これは自分に自信がない者に限って出るセリフだ。他人から認められる者は大学や自分の職位を聞かれるまで言う

ドジャースに移籍。これは全世界のスポーツ選手ではぶつちぎりの高額所得だろう。

音楽界では米フィラデルフィアのカーティス音楽院に最年少の10歳で入学した天才少女、吉村ひまりちゃんを紹介したい。彼女は6歳の時より世界の15歳以下のコンクールで30回以上優勝。現在12歳となったひまりちゃんは、日本よりも世界で、大きな期待と話題で持ち切りだ。

スポーツや音楽で世界をリードする若者たち。いまさらながら日本人の隠された能力が信じられない思いがする。

日本は現在も世界の先進国の一角を維持しているが、経済では10年余り前に中国に追い越され、現在の国民総生産は世界の3位をなるとか守っているが、近々ドイツに追い抜かれそうという話題も出ている。今後どうなっていくのか、平成生まれ以降の若者が日本の成長を任せられている。

少子化による労働人口の減少や資源が乏しい日本の成長には、前述のように世界に誇れる若者の資

- ものではない。
- ② 優れた者は自分の手柄を隠すことはあつても威張ったりしない。
 - ③ 部下に威張るな、また機嫌を取るな。
 - ④ ゴマを擦ってくる部下や仕入れ先は要注意。自分に下心があるからゴマを擦っていい思いをしたいのだ。
 - ⑤ 好感を持ってない部下から話しかける。好きな部下は話が無くてもよい関係を持つて。
 - ⑥ 部下の話は熱心に聞け。
 - ⑦ 仕事をサポートする部下には常に心の中で感謝しろ。
 - ⑧ 誰でも少なからず長所を持っている。適材適所を見つけ、見合った仕事を与えることで大きな成果を出せる。
 - ⑨ 自分の手柄は出さず、部下の手柄を評価しろ。
 - ⑩ 自分の考えははっきりと示し、部下の意見も熱心に聞け。
 - ⑪ 部下に大きな仕事を任せ、失敗した時は自分が責任を取れ。
 - ⑫ 何度も言い聞かすより、まず自分が見本を見せろ。
 - ⑬ 業務以外の部下の悩みも熱心に

質で、強い日本”を維持することを目指す。このためには各分野や組織に優れたリーダーを必要とする。筆者の偏見になるかもしれないが、良きリーダーとは、という内容を書き進めたい。

昇格後の行動に注意

筆者は大学での講義や若手経営者教育の講演を何度も行ってきた。そこでよく使う事例を紹介する。

9年前、四日市のあるホテルで銀行の講演会と懇親会が行われた。懇親会の場で遠くのテーブルで飲食をしていた知り合いの若者が私の顔を見た途端急いで走ってきた。

突然ポケットから名刺入れを出し、「伊藤さん、私は先月から社長になりました」と言い、うれしそうに名刺をくれた。しかし、中堅企業の経営者になった彼は、当然うれいだろうが、それを表現してはいけない。正しくは、「伊藤さん社長になりましたが、責任は重くなり、これからは大変だと思えます。今後いろいろとご指導ください」などと言うべきだ。

その後知人から、彼は夜の街の

聞き、よく世話をしなれ。

このように、些細なことまで書けばキリがないほどの経験をしながら、人生には自分が経験したことのない多くの困難が待ち受ける。どのような立場の人であろうと「自分以外の人間はすべてお客様」と心していれば、多くの困難を乗り越えられるのではないだろうか。

いとう・すみお

1965年立命館大学経営学部を卒業後、伊藤製作所に入社。1986年同社代表取締役となり2022年12月同社会長に就任する。順送り金型メーカーの老舗企業であり、国際競争力のある金型製造技術の確立に努め、無人化、高速化、精密化を追求したプレス加工で卓越した技術力を誇る。(社)日本金型工業会・副会長・国際委員長を歴任。中京大学特別栄誉客員教授、国立ソウル科学技術大学校名譽教授、神戸大学非常勤講師などを務めて後進の育成に寄与。2017年4月「旭日単光章」、21年1月「紺綬褒章」受章。著書に『モノづくりこそニッポンの砦』『ニッポンのスゴい親父力経営』『日本製造業の後退は天下の一大事』がある。

